

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部文化学科
氏 名 塚本 明

活動テーマ	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築 ～熊野市歴史民俗資料館架蔵古文書の調査と活用～
実施期間	平成 23 年 6 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 25 日
活動内容	<p>本事業は、熊野市歴史民俗資料館の大量の古文書類を地元市民の方々と共同で学術調査を行うもので、2008 年～2009 年度に実施した熊野市大泊町善根宿納札調査（当該資料は本年度末に三重県指定文化財に登録された）、2010 年度の湯谷かやのき資料館所蔵文書の調査に続くものである。</p> <p>（１）具体的な活動実施内容</p> <p>まず 6 月に予備調査を行い、資料館の収蔵庫で資料の概況を把握した。予想以上に時期の古い貴重な資料が含まれることを確認した。</p> <p>9 月 17～19 日に第 1 回目集中調査を行った。参加者は三重大側 13 名（教員 1 名、学生等 12 名）、地元の市民グループ・熊野古文書同好会 6 名（延べ人数 47 名）であった。熊野市五郷町高菜組合の方々との交流会や、世界遺産熊野古道の現地見学なども含め、充実した調査となった。</p> <p>さて、当地は 9 月に未曾有の水害に見舞われ、古文書同好会のなかにも被災された方がおられた。また、歴史民俗資料館所蔵文書と関連の深い、各地の古文書の保全も危ぶまれた。三重県立博物館（杉谷政樹氏ら）及び三重県史編さんグループ、及び熊野古道センターの縣拓也氏と連絡を取りつつ、文化財の保管状況の把握に努めた。</p> <p>2012 年 1 月には、古文書の会と熊野市教育委員会・更屋好年氏と共に被災地の一つである育生町を訪ね、当地に残る尾川区文書の保管状況を調査した。当該資料は熊野の山村の状況を伝える、質量共に優れた古文書である。郷土史家の前千雄氏が整理を施されてはいたが、なお未整理の文書千点ほどを見出した。また育生小学校（休校）に保管されていた粉所文書も状況を確認した。これらの文書については、地元区長さんや教育委員会とも相談しつつ、今後調査を行う予定である。</p> <p>3 月 21 日～23 日に、第 2 回目の集中調査を実施した。三重大側の参加者 20 名（教員 1 名、学生 19 名）、熊野古文書同好会 10 名、延べ人数 65 名である。育生町長井村文書と五郷の田垣内家文書（桃崎村庄屋文書）の整理を手掛け、一部を除き調査カードを取った。山林の所有や利用の仕方を伺わせる史料、飛驒国などから出稼ぎに訪れている史料、貧しき故に旅立った者の往来手形など、興味深い文書が豊富に見出された。</p> <p>調査は 6 班に分かれて作業を行ったが、最終日には班毎に担当した古文書の概要と、特に注目される文書の特質を中心に調査の成果報告会を行い、地元の方々と共に成果の共有を図り、好評であった。</p>

(2) 地域への貢献

熊野歴史民俗資料館では、豊富な古文書を所蔵しているものの、古文書を扱う専門スタッフが不在のため、十分な活用がされてこなかった。今回始めた調査により同館所蔵史料の全貌を明らかにし、将来の展示に活用することは、資料館側からも要望されている。調査についての地元新聞に報道されたように、「熊野市の文化や歴史に大きく貢献するものと期待」されている。

また熊野古文書同好会は崩し字史料の解読会を定期的に行っているが、古文書を学術的に読み解くことは十分に習熟している訳ではない。調査中には随時古文書から史実を把握するためのミニ講習を行い、また文化財の取り扱いに関する技能を地域社会に伝えることに努めた。

(3) 共同実施者との連携状況

熊野古文書同好会、熊野古道センター（縣拓也氏）とは、2回実施した集中調査において共同して作業を行ったほか、現地見学会、成果報告会などを通して密な交流を深めた。また古文書の所在調査、特に2011年9月の大水害後の状況に関して、県立博物館、県史編さんグループと連絡を取り合い、情報の把握に努めた。県立博物館では地域社会とのネットワーク作りを進めているが、こうした調査活動と連携していくことを相談している。

(4) 大学の教育・研究成果とのかかわり

第1回目で調査した古文書を、大学での演習などでも活用するなど、教材としても利用させて頂いている。第2回目の調査文書については、崩し字の解読教材としてだけでなく、その内容を検討し、解説文を作成することで、学芸員の実務仕事の一部を体験することになる。

現地に赴き、原文書を用いて調査を行う機会は、学生にとって貴重な経験であり、参加学生には学ぶ意欲の向上が顕著に見られる。また地元の社会人の方々と共同で作業し、交流することによる社会的経験値の高まりも大きい。今後、演習などを通して学生・院生による研究成果が生まれることも期待されている。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

熊野市歴史民俗資料館所蔵文書調査、熊野少年自然の家、延べ47名（第1回）、延べ65名（第2回）。

* 詳細は前掲の通り。

(6) 調査に関する反響

集中調査の様子や成果は、地元新聞（南紀新報、吉野熊野新聞）にも大きく取り上げられ、それを受けて熊野市教育委員会では、今後の調査やその成果報告等の活動について、支援を検討頂いている。